

平成 29 年度 第 4 回古賀市図書館協議会会議録

会議名称：平成 29 年度第 4 回古賀市図書館協議会

日 時：平成 30 年 2 月 20 日(火)14 時～15 時 30 分

場 所：古賀市役所第一庁舎 4 階第 2 委員会室

主な議題：①平成 29 年度後期(10 月～)事業報告

②今後の運営について

傍聴者：0 名

出席者：橋本 由里委員 鈴木 章委員 河村 正彦委員

村山 美和子委員 渋田 京子委員 久池井 良人委員 石丸 貴子委員

以上 7 名

欠席者：1 名

事務局：5 名

配布資料：①レジュメ

②資料 1 平成 29 年度事業報告(4 月～1 月)

③資料 2 平成 25 年度～29 年度 図書館の利用状況(4 月～1 月)比較

1 開会のことば

(事務局)

欠席の連絡をさせていただきます。社会教育委員の檜山委員さんから欠席の連絡を受けております。資料の確認をさせていただきます。レジュメ、資料 1 平成 29 年度事業報告(4 月～1 月)、資料 2 平成 25 年度～29 年度 図書館の利用状況(4 月～1 月)比較の 3 枚をお配りしております。

本日も第 2 委員会室にて会議を進めさせていただきます。本会議につきましては、会議の公開制度に基づきまして傍聴席を設けております。会議の内容につきましては、古賀市のホームページ上に公開されますので、あらかじめ御了承いただきたいと思います。会議の中での発言の際にはマイクのスイッチをオンにいただき、終わりましたらオフということで、よろしく願いいたします。スムーズな議事録作成のためにご協力いただきますようお願いいたします。それでは、第 4 回古賀市図書館協議会を開催いたします。開会の言葉を文化課長の星野よりいたします。

(課 長)

皆さんこんにちは。本日は、第 4 回古賀市図書館協議会にお集まりいただきましてありがとうございます。今年は雪も多く、インフルエンザもかなり流行いたしました。そのせいか、本日の資料にもございますが、1 月の入館者数が昨年度よりも少し落ち込んでいるような状況でございます。外出というのは天候にも左右されますし、インフルエンザなどの感染症がはやりますと外出を控えるよう私どももお願いしているところでございます。そういうこともあり、入館者数や貸出冊数など、数字だけで一概に一喜一憂できないと実感している今日この頃でございます。

本日、これからの協議会におきまして、さまざまな御意見をいただき、これからの図書館運営に反映していければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

2 会長あいさつ

(事務局) 続きまして、鈴木会長より御挨拶をよろしく申し上げます。

(会 長) 皆さんこんにちは。インフルエンザの話もあります一方で、梅のたよりも聞かれます。学校教育関係のことで少し申し上げますと、高等学校の新しい学習指導要領の改定案の中で、小・中学校とも「主体的で深い学び」という話がございます。読書活動、学習活動、図書館を利用した調べ学習、課題解決学習をさらに充実していく必要があるということが叫ばれており、学校図書館と公共図書館の連携やネットワークが必要だと改めて思いますし、このことは高等学校でも同じでございます。

最近、全国の各種図書館の数が若干増えているが、蔵書数は微増または微減、余り変わらないという話があります。全国の様々な図書館の数が若干増えているのは多様化ということがあると思います。図書館の運営、経営の仕方もそうですが、質量とも非常に多様化してきています。若者のネットカフェならぬネット図書館、カフェ図書館も含めて様子が旧態依然ではなく、新しい形の図書館のあり方が良い意味で見直されているといえますか。それでいいのかという考え方もありますけども、これからの子ども達、若者達が図書館を利用し、活用するという面では、ある意味それは必要じゃないでしょうか。

ネット社会になっていきますと、紙媒体の印刷メディアとネット、一方だけではなく両方をいろいろな角度から活用していくということが大事ではないかと思えます。これはすべての公共図書館だけでなく、学校図書館でも今後ますますそういうことが言えるのではないのでしょうか。

そういったことを踏まえて、これからの古賀市の図書館の質、量的な意味での有り様をこれから考えていく必要があるのではないかと思えます。その時にどういう方向に行くのか、考え方、方針というのがとても大事なことだと思います。質的、量的なことも含めて、市を挙げて考えていかなければいけないこともあるのではないか。今後、私達の図書館協議会で意見が少しでも出るといいのではないかと思えます。よろしく願い申し上げます。

(事務局) ありがとうございます。

3 協議及び報告事項

(1)平成 29 年度後期(10 月～)事業報告

(事務局) 続きまして協議に入ります。ここからの協議進行につきましては鈴木会長にお願いしたいと思えます。よろしく願いいたします。

(会 長) 今日のレジュメでいきますと、1 つ目は今年度後期の状況について、2 つ目は今後の運営のあり方についてです。

来年度以降の図書館のあり方、この図書館協議会のあり方も含めてでも良いと思えますので、今後の運営について少しでも意見交換ができたらと思っております。

その他、事務局からあればという流れでいきたいと思えます。それでは今年度後半、10 月以降の事業報告について、事務局お願いします。

(事務局)

資料1の平成29年度図書館事業報告をご覧いただきたいと思います。第3回の協議会で前期9月までの報告をさせていただきましたので、今回は10月から1月の報告をさせていただきます。10月1日に読書講座「私の川柳」を行っております。講師に雪灯拔足さんをお迎えし、川柳との出会いなどについてユーモアあふれる作品の数々を見せていただきながらお話を伺いました。30人の参加がありました。10月後半の図書館まつりで川柳の募集を行うこともありこの時期に実施したところです。

10月27日から29日の3日間、「第23回図書館まつり」を実施いたしました。3日間を通して、ブックリサイクル、ぬり絵コンテスト、川柳コンテスト、本の闇鍋などを行いました。日替わりイベントとしては、27日にしおりづくり、28日に講演会、29日にビブリオバトルを行っております。

28日には児童文学作家でストーリーテラーの杉山亮さんにおいでいただき、「ものがたりライブ」を行いました。午前中は各学校の親子読書会会員の親子向けの特別なおはなし会、午後は一般の方向けのライブということで楽しんでいただきました。午前中80名、午後104名、合わせて184名という多くの方に参加していただきました。

29日に「第1回ビブリオバトルイン古賀市立図書館」を行いました。高校生を含む6人のバトラーさんが読んだ本との出会いや内容について観覧者に語り、どの本が1番読みたくなったかを投票し、チャンプ本を決定するというゲーム型の本の紹介に参加していただきました。それぞれの作品やバトラーさんの人柄に触れ、あたたかい雰囲気の中で実施することができました。バトラーさんを含めまして27名の参加でした。図書館まつりの土日は多くの方に図書館を御利用いただき、1日に1000人以上、3日合わせて3241人の方に来ていただいたところです。

11月9日に、図書館の利用促進につながるよう「大人の図書館員」を実施しました。3名の募集に対し3名の応募がありましたが、ご都合で2名キャンセルとなり1名で実施となりました。図書館業務の体験に積極的に取り組んでいただいたところです。

11月26日に、読書講座「三島由紀夫を読む～橋づくし」を実施しました。講師には福岡女学院生涯学習センター講師の谷口佳代子さんを迎え、三島由紀夫の人生を年譜で追いながら短編「橋づくし」についてお話いただきました。参加は19名で、少ない人数になっております。参加された方はメモをとりながら、熱心に話を聞いていらっしゃいました。

12月24日に、小学生向けのおはなし会を行いました。夏休みにも行いましたけれども、長期休みに行くということで、写真絵本やクイズを織り交ぜながら、季節の本を楽しんでいただきました。子ども7人大人2人、合わせて9名の参加がっております。

2月3日に古賀市親子読書会「第49回古賀市親子読書のつどい」を行いました。市内小学校から、日頃の親子読書体験の作文発表や、本から広げた劇や群読などをしていただいたところです。各学校から先生方や、子ども達の友達が見に来てくれまして、親子読書会の子ども達も張り切って演じてくれました。図書館の着ぐるみのことちゃんも登場しまして、幕間で「ことちゃんクイズ」というのもありました。全部で240名の親子、学校関係者の参加があったところです。

星印がついている事業につきましては、古賀市介護支援課が行っている高齢者外出促進事業の対象イベントになっております。

裏面の右端には月例行事の4月から1月までの参加者数を入れております。年齢に応じたおはなし会、名画会、子ども映画会など、たくさんの方に参加していただいております。

ブックスタート事業では、子育て支援課と連携しながら、絵本の読み聞かせや親子で絵本を読むことの大切さについてお話をしております。親子で502人の参加がありました。そのうちの221人の赤ちゃんに絵本を手渡したということで、このように書いております。

セカンドブック配付事業は、3歳児健診会場で397人にお渡しし、図書館のセカンドブックおはなし会で41人参加されまして19人の3歳児にお渡ししました。平成29年度に入りましてセカンドブックについては90%近くの3歳児に配付ができているところです。月によっては100%お渡しすることができている月もあります。

平成29年度から実施しております学校図書館市民開放用一般図書の配本事業については、2月現在まで合計しまして3358冊配本しております。学校へのアンケートでは「子育てサロンで未就学児と親御さんが来るのでちょうど利用ができてよかった。」「本のリクエストができて喜んで借りていかれます。」「児童も一般書に触れることができよかった。」という声をいただいているところです。

その他に12月「親子でほっこりいのちのおはなし会」というのを書いておりますが、古賀市人権のつどいの中で人権センターと連携しながらおはなし会を実施しております。心があたたかくなる絵本や笑顔になる絵本を選び、ボランティアさんと1時間、絵本の読み聞かせリレーを行い、関連図書もブックトラックに入れて会場に置き、手に取っていただいたところです。14名の参加がっております。

「古賀市まちづくり出前講座」については、第3次古賀市子ども読書活動推進計画策定に伴い、計画を推進していく方策として今年度から始めております。1件の申し込みがあり、6名の参加者へ向けて、子どもの成長における読書の大切さと読み聞かせについての講座を実施しました。

2月10日に、歴史資料館との連携で「ナイトミュージアム&ライブラリー」を行いました。古賀市で船原古墳が発見されましたので、「フナバル王子」を救い出すミッションをクリアしていくゲーム、図書館では、絵本の中からヒントとなるような絵本を探し出すというもので、職員も黒いマントで身を隠し、灯を落として行っております。10組50人、親御さんも来られて約60名の参加でした。以上が資料1の事業報告になります。

次に、資料2をご覧ください。平成25年度から29年度までの図書館の利用状況について4月から1月の比較を一覧表にしております。貸出冊数、貸出人数、入館者数、新規登録者数を書いております。昨年度と比べますと、貸出冊数、貸出人数、入館者数は少し増えていますが、新規登録者は昨年度よりは減少している状況です。平成25年度、26年度に比べると、少しですが、今のところ上回っているという状況になっています。以上が、1月までの報告になります。

(会 長)

ありがとうございました。4つぐらいに区切って進めたいと思います。1つ目は10月の図書館まつり、2つ目は、11月から2月の事業、3つ目がその裏の月例行事、最後に、入館者数、貸出冊数、貸出者数等について、この4つに分けて順に見ていきましょう。

はじめに10月に行われた図書館まつり、人数も3日間で3000人ということで、大変盛況だったという話もございます。図書館まつりについて、参加された人もいらっしゃるんじゃないかと思しますのでその様子や感想も含めて出していただきませんか。ビブリオバトルはとても温かい雰囲気だったという話もありました。御意見、質問等ありましたらどうぞ。

(副会長) 委員の中でもビブリオバトルに参加された方が私以外にもいらっしゃいました。人数が少ないのは残念ですが、たくさんの方がふらっと寄るような内容でもないから仕方がないのかなと思います。高校の先生が子ども達を連れていらっしゃっていました。子どもも一生懸命その本の内容を紹介していて、図書館と学校とそして生徒さんがつながっている姿が非常によかったなと思いました。発表の後、一緒に見に来ている方が感想を言い合うわけですが、内容が非常にこれから読書していこうという雰囲気を醸し出すのによかったと思います。

最終的に1人が1番優秀と決まりますので、そこに来たバトラーさん皆に対してこの点がよかったというような講評を出すの良いのではと思いました。順位をつけて1番だけとなると、最終的に勝った、負けたみたいになってしまってもいけないと思いました。古賀市の中にもたくさんの学校がありますので、いろんな学校から集まってくるとう学校間の交流になるんじゃないかなという感想も非常に強く持ちました。

(会 長) ありがとうございます。ビブリオバトルの基本は、優勝者、トップを決めるのがまず基本にあります。その上で、頑張った子たちによかった点や課題、講評を話す、そういったフォローもやっていくことが古賀式ビブリオバトルでも良いと思うんです。こうでないといけないということではなく、少しでもそういった方向にということをお勧めしたいかなと思います。その他、あるいはその関連でも、ビブリオバトルについて参加された人がもしあったらお願いします。どうぞ。

(浜田委員) 私はビブリオバトルにバトラーとして出てきました。私も初めてで、とても楽しかったです。参加者の中にいろんなところのビブリオバトルへ出ている方がいらっしゃって、慣れていていろいろされていました。

優勝者を決めるのもいいんですけども、さっき言われたように、私も講評みたいなのがあればいいかなと思います。読みたい本となると、バトラーの関係者が見に来ていて、その人たちも手を挙げてしまうので、できればバトラーの関係者は挙げず全く関係がない人たちが手を挙げてもらうと本当に読みたい本というのがわかるかなと思いました。高校生が4人いましたが、今こういうのを読んでいるんだな、読みたいんだなというのがわかって、私はすごく楽しかったです。来年、再来年、いろんな人に見に来てもらったらいいな、根付いていけばいいなと思います。

(会 長) これは新しい取組ですか。

(事務局) 今年度初めて行いました。

(会 長) 意図、願っていたことというのは何かありますか。

(事務局) これまで、講座などを一方的にするような感じがあったので、利用者が一緒に参加し楽しめるイベントもしたかったというのは一つあります。

(会 長) 今後、来年度も、新たにいろいろな工夫をされて進んでいくのではと思います。

(河村委員) 私が、この協議会からビブリオバトルに参加したメンバーの3人目ですが、全体として思っていた以上に皆がなごやかで、いろんな心配していたのを振り払うように、いろんなお話がポンポンでてきて、その辺がとっても楽しくて、生き生きとした感じがあったと思います。

私が最初に感じたのは、バトルということ、優勝者を決めて競争的なのがやはりひっきりありません。技術的な点で今後改善すべき項目としては、会が終わった後に、副会長さんとも立ち話でお話をして、同じことを思っておられると思ったのですが、時間にもものすごく厳密で、例えば5分なら5分、後30秒残っているとかがそういう時間の使い方をされるんですね。5分を超えて長くが困るのであって、5分以内であれば切りがついて話す該当者もう話がないような場合にはそれで終わっていいんだし、これは初回ですから、そういう点に関しては、よりよくしていく方策がいろいろあると思います。そこをもう少し、実態に合わせたように柔軟にできたほうがもっとよかったかなと思います。無理をして時間をいっぱい使うことはないというのは、二人の意見ということで、全体は本当に楽しかったです。こういうのも良いなあと思いました。

(村山委員) 私もビブリオバトルに参加させていただきました。いろいろな御意見が出ていましたけれど、参加者としては、高校生の皆さんとお話しすることは余りないので、高校生、中学生の読書量は減っているかもしれないけれど、やっぱり好きな子がいるんだなということがわかってうれしい気持ちになりました。また、質問させていただけるというのが、つながりができるということでとても印象に残りました。こちらのほうから突然の質問があっても、悩みながら高校生の皆さんがきちんとお答えになっている姿を見て、それもまた良い印象を持ちました。時間について河村委員さんからご意見がありましたけれども、私なんかは、終わってからのあの30秒困っておられる姿を見るのが、すみません、楽しかったんですけど、やっぱり出演する方は大変だったと思います。それから洪田委員さん、勇気を持って参加されている様子を見て、大変尊敬いたしました。

(会 長) 私は本当はビブリオバトルという言葉がもともと好きではなく、基本用語なのですが、こんな名前をなぜつけるのかと前から思っていました。学生に言うときは、バトル(なになに)と付けてさせるんです。バトルとなると、時間何分、ストップ、終わり、優勝者を決める、そういう形の戦いですが、ここは少し呼称を変える形にすると変わってくると思います。工夫は大いにしていると思うんですね。もう一つ、村山委員さんがおっしゃったんですけど、若者、高校生にとって、こういう活動というのは図書館に行くきっかけになるわけですね。ビブリオバトルの持っている意味は、読み聞かせやブックトークと同じように、本を読むきっかけになることにあります。これは面白そうだな、ちょっと読んでみようかなとなり始めるきっかけとして、若者に根づく学校も高校も、多いんですね。そういうことを考えると、目標のねらいはそこですね。とても大事な発想だと思います。ならば、これからやり方を古賀流でやってもよいと思います。

図書館まつりのその他のことで何かお気づきの点がございましたらどうぞ。

(副会長) 杉山亮さんの「ものがたりライブ」がありましたね。私は興味があったから見に行きましたが、予想以上におもしろかったです。見に行かれた方はいらっしゃるでしょうか。語りが非常によかったですよね。競馬という形で動物を競わせて、動物を動かすのは自分で、話術で非常に楽しく盛り上げていらっしゃいました。私はそれを通じて、物語の作家の方と読み手である子ども達の距離が縮まっているのを感じました。

終わりに司会の方が、「杉山さんに何か質問はありますか」と聞いたときに、ありきたりの質問じゃなかったですよね。子ども達の中から「杉山さんにとって物語とは何ですか」というような非常に程度の高い質問が出て、杉山さんが「これはなかなか深い質問」とおっしゃっていました。

そのほかにも「物語を書く時気をつけていることはどんなことなのか」とか、「アイディアはどういった形で浮かんでくるのか」という質問等があって、大人が聞いても深いところをついているなと思いました。杉山さんも内容的に今日のやりとりは深く面白かったとおっしゃいました。さっきは高校生向けの行事が出てきましたが、違った角度でこの行事は小学生向けによかったと思います。図書館まつりでいろんな切り口がされたなということを改めて思ったところです。

(会 長) 大事なところですね。いろんな切り口でまつりの中で催していく、さまざまな角度から、いろんな人を対象にしながらやっていくということですね。まつりに参加することによって改めて本の世界の持つすばらしさ、楽しさ、そして図書館の持つ良さを思いますね。既に図書館まつりを23回もしていますが、今回改めて思いました。こちゃんも大活躍でしたね。ますます来年度も期待されるなど話の中で思いました。

次に、11月から2月まで、大人の図書館員から始まって、市内の親子読書会、「第49回古賀市親子読書のつどい」までの11月以降の内容についてどうでしょうか。

(村山委員) 私は、「古賀市親子読書のつどい」に参加させていただきました。残念ながら半分しかいられなかったのですが、全部のことについてのお話ではないのですが、感じたことをお話しします。昨年から参加したんですけれども、昨年は入りました途端に、後ろにずらっとお父さん方がカメラを持って構えておられるような様子でしたが、今年は大変落ちついた雰囲気の中で発表が進められておりました。また、昨年度は、衝立を幕替わりにして、発表と発表の間、準備の様子が見えないようにしてあったんですが、今年度はその衝立の活用が非常にスムーズで、よかったなと思いました。

それから、本の選び方ですけども、物語は大変心を打ち、楽しいですけども、今回は、少し言葉を意識したような、勉強になるようなものが幾つもございました。また、聞いている人に訴えかけることができるように、発表の仕方を十分工夫してありましたので、大変勉強にもなり、楽しい時間を過ごすことができました。以上です。

(会 長) ありがとうございます。今、言葉を意識したものという言い方をされましたね。学校で言語活動の充実というのでも叫ばれていますけれども、ここには先生方も加わって、多少支援するなど、一緒にやるようなことはされているのでしょうか。

(事務局) 親子と学校司書が活動しています。

(会 長) あくまでも親子と学校司書さんですね。他の担任、司書教諭も含めた先生方の参加、一緒に活動したり、発表の仕方を云々というのはないんですね。

(事務局) はい、ありません。

(会 長) とても昨年以上に落ちついた雰囲気、とても充実した内容だったということをおっしゃいましたね。はい、どうぞ。

(橋本委員) 会場が前はすごく広い中央公民館の大ホールだったのですが、今の会場はとても良くなったと思います。交流館の多目的ホールという場所自体も、親子で読書を楽しんだ方々が交流しあう場としては非常に良いなと思っております。

内容も劇を発表するのではなく、お互いの親子読書のよさや、今後親子読書会をする上の運営上の工夫とか、この本を読んだら子ども達の反応があったよとか、それぞれの学校の親子読書会のニーズに応じた会になればいいなと思います。何とかの劇の発表ではなくて、読書の楽しさを語り合うシンポジウムのものになってもいいなと思います。つどいに向けての劇の練習が目的ではないんですよ。読書の楽しさを語り合える、しかも親子で語り合えるというのが、古賀市の親子読書会ならではの素晴らしい歴史に支えられた会だと思っております。村山委員さんがおっしゃったようにカメラを待ち受けてという感じでなく、充実感を確認しあう会に、会員が自然に増えていくような交流会に、今後ますます発展していけばいいなと思っております。

(会 長) なるほどですね。会場のことですが、前回と今年は違うわけですか。2年前からですか。

(事務局) 昨年度から多目的ホールで行っております。以前は大ホールで行ってございました。

(会 長) 大ホールの時、私も参加しておりました。会場の問題、状況もあるかもしれませんが、今言われたように、発表をして終わりということではなく、お互い発表を通して物語の世界を共有し、その部屋でひたることが、主催者側も参加する皆さんも大事と言われたと思うんですよ。どうしても発表のための発表みたいになってしまうんですが、皆で味わって、感想を述べる、そんなことも実は大事ではないかと思えます。他に何か。

(副会長) 読書講座の「三島由紀夫を読む」、これ私はなかなか面白いと思って聞いていたんですけども、テキストに課題があると思えます。三島由紀夫を論じる研究者の人にとっては非常に有名だけれども手に入らないため、講師の方が原文をコピーしたものをこの会場限りということで持って来られていたんですが、著作権上の関係ですぐに回収になりました。その場ですぐぱっと読めるものでもなくて。実はこれ文庫本があったんですよ。だからもっと手近に手に取れるものを紹介して、敷居を低くしておかないといけないかなと思えます。三島由紀夫を論じるんだったら行きましょと。しかし、自分が知らない作品を取り上げていた時に、読んでいなかったら行かないと思えます。中身は面白いのに、しょうがないな、惜しいなと思えます。19人はいかにも少なく、講師の方にも気の毒だったんで

すけれども、仕方がなかったかなと思います。

来年度からちょっとやり方を変えれば、図書館の方でもきっと考えていらっしゃると思いますが、もっとたくさんの方が来られて、読書の楽しさというものを改めて考えられるのではないかと思います。

(会 長) なるほど、内容的にマニアック、専門的な部分が若干あるんじゃないかという指摘だと思います。

11月12月は寒いからか、1人、19人、9人という参加者数ですね。インフルエンザのこともあるし、12月24日はクリスマスだからか人数的には。その一つで、参加者数19人である読書講座についての指摘がありました。その他、大人の図書館員1人というのはどういう状況でしょうか。

(事務局) 大人の図書館員は3人を募集し、内容はカウンター業務や本を並べたりしていただくようにしていました。3人応募があり、そのうち2人の方がキャンセルされまして、残念ながら1名になったということでございます。

(会 長) その他、小学生向けおはなし会も7人と保護者2人ということも言われました。次に参りましょうか。資料の裏の月例行事及びその他の件について、何かありましたら。

(石丸委員) 質問ですけど、例えばブックスタートで502の方が聞かれて、221人にお渡したという意味の数字ですか。例えばセカンドブックだと41人がその会にはいらっしゃって、19人にお渡したという意味で良いのでしょうか。

(事務局) そうです。親御さんがお父さんお母さん、お子さんの兄弟等が来られるのでそのお話会にはこの人数が来たんだけど、お渡した数は、左側の数字というところで書かせていただいております。

(石丸委員) 関係の方が一緒に来られたということですね。「来たけどもらわないでいいです」とおっしゃった方がいらっしゃるのかと私は思ってしまったので、どうしてなのかなと不思議に思ったので伺いました。もらう人と一緒にたくさん来ていたから人数が増えているという意味ですか。

(事務局) そうですね、1人のお子さんに御両親や兄弟が来られたりというところで参加者を書かせていただいております。

(会 長) よろしいですかね。はい、そのほかに。どうぞ。

(橋本委員) 橋本でございます。この図書館協議会の委員に任命させていただいて、私が住んでおります町の図書館と比較してどういう特徴があるのかと思いながら図書館に行くようになりました。古賀市の図書館ですごく思うのは、多様な年代、小さい方から高齢者に向けて相手意識が多様で、さまざまな仕掛けをしてくださっているということ今年度の図書館ま

つりを見ても感じるどころです。長期休業中にはタイムリーに小学生向けのおはなし会をしてくださっていて、ターゲットを様々に広げていただいているということを改めて感じているところでございます。

その中で、先ほどもおっしゃいましたが、本年度より、1～2か月に1回40冊、地域住民のリクエストにお答えする形で学校図書館に市民開放用の図書を用意してくださっています。本校にも、リクエストされる方の求めに応じて、料理本やつりの本、104歳になられた病院の院長さん、日野原さんの本とか、本当に多様な本を用意してくださっています。学校司書の先生が図書室に入ってすぐのところにコーナーを設けてくださっているので、子どもも目が行きやすいということと、私自身もそこから、学校の図書館の本は時々借りていたんですけども、今は市立図書館の本を月に2～3冊借りることが多くなりました。

ただ学校としての課題はやっぱりまだコマーシャルが足りないなと思います。学校に来られる方には「市民開放用の一般図書があるんですよ」とお声をかけるんですけども、もう少しそれぞれ11校でコマーシャルしていかないといけないなということを常々感じているところです。学校のフェイスブック等でも、配本が変わった折には「こんな本が来ました」というようなコマーシャルをしないといけないなと思います。これだけのことをして下さっている図書館もないと思いますし、古賀市の各小学校は学校図書館を開放しているということで、今度宮崎から視察に来てくださるということも聞いておりますので、良さを自然な形で広げていかなくてはいけないなと学校としては思っているところです。いつも楽しい本を40冊ありがとうございます。

(会 長) 幾つかの事業はこれまでもしていたんですが、学校図書館市民開放用の一般図書の配本は今年度からだったですかね。

(事務局) はい、今年度4月から始めております。大体1～2か月に一度、40冊を限度として配本させていただいております。どこの学校も、市立図書館の展示コーナーを作ってくださいって、広く紹介をしていただいているなということは感じております。

(会 長) 学校と図書館との連携、ネットワークのことも含めて、とても大事なことだと思って感心しています。すごい考え方、事業だと思います。図書館の支部的な意味で考えると、そこに来た人は入館者数に入れてもいいんじゃないか。市立図書館だけが図書館ではなく、小学校も公共図書館の一つという発想もできるかなと思いついてお聞きしていました。

そのことを通して、一部かもしれませんが、地域の方が学校を理解し、子ども達や先生方を理解し、支援していくことにつながっていくと思うんです。図書館の本を借りるだけでなく、地域と学校との、さらには、市立図書館につながっていくことも含め、非常に幅の広い見方ができてくるし、柔軟に対応できることもありますね。それでお聞きしたんですけども、今年からということ当初この会でも言われていましたし、まだまだ課題等もあると思うんですけども。

リクエストというのは、各学校でとっているのか、そして地域の方がどんなふうに使われているのでしょうか。

(橋本委員) 古賀東小学校の売りは、「1か月間借りられますよ」ということです。1か月間貸出期間

があります。「1 か月あったら3冊読める」とか「ゆっくり読める」とよく言っておられます。リクエストは、市の図書館のほうから読みたい本があったらということで、市民の方の希望を「次回までにつりの本をそろえましょうね」という形で、学校司書の先生と図書館の担当の職員の方が意思疎通をはかり、そろえてくださいます。

今日も、地域の方が「つくしが生えているから学校に持ってきました」って図書館につくしの生えた鉢をつくって持ってきてくださいました。学校にとっては本当にありがたい取組だと思います。学校の設備上、図書館が2階なので、階段をあがっていただくのが非常にお気の毒だな、古賀中のように1階のスペースがあればいいなと思いつつながら、運動して上がっていただくという形になっています。

これからの時代、学校のありようを考えていく上でも、地域の拠点の学校の一つの大きな窓口として、たくさん来られるというよりも、読みたい方の求めに応じてという形で発展できたらいいなと思っております。

(会 長) 加えて何か。利用ニーズという問題も出ましたね。

(事務局) 先ほどのご意見のように、求めに応じてということになりますけれども、配本の1週間前までに希望図書の依頼表を学校から図書館にファックスで送っていただきます。例えば、釣りに関する本何冊、ギターの本が何冊、後は図書館におまかせという具合です。それに応じて司書が全員で分担しながら、その本を用意して、学校に送り届けているような状況でございます。

(会 長) わかりました。その他、今の件に関連してでも、どうぞ。

(副会長) 今の件ですが、自治体によっては町の中のいろんなお店に本を置いているところがあります。町中図書館とか言って、例えば酒屋さんには図書館の本ではないですがお酒に関する本をちょっと並べたり、まちの中で、図書館以外にもいろんな本を展示されていて、その中心に、公共図書館があつて、公共図書館の本じゃないんですが連携しているという部分で、その自治体の特色になっているところがあります。

古賀市の場合は、学校と連携されているのだったら、学校の個性と図書館の支援ということのを合わせると、古賀市の一つの特色としてもっと打ち出しても良いのではと思います。これにもし企業とかお店も加わると、文化が育っていくんじゃないかと思えます。

今、本を読む文化がだんだんすたれていってと言われてはいますが、工夫の仕方によっては新たなところから打ち出すことができるし、そこがまた図書館の中心的な役割じゃないかなと思いました。

(会 長) そのとおりですね。本当に、最初に挨拶のなかで言いましたように、図書館の特色を大事にしなければならないし、方針をしっかり持ってやっていくことも大事だということも今言われました。橋本委員さんからも言われましたように、多様な対象と対応した取組は、これからますますこれから大事になってまいります。ある層の方のみが図書館を利用するというのではなく、いろんな層の、子ども達から高齢者まで含めて、いろんな、多様なニーズに対応できるようなさまざまなことを仕掛けていってほしい。これはほかの図書館

と比べても先ほどから何人かの委員さんが古賀の図書館のすばらしさとおっしゃっているんですが、本当に自負して良い内容だと思います。ますます増えてきているなということをも改めて思います。ほかに関連で。どうぞ。

(石丸委員) 先ほどのすばらしさにもう一つあると思います。古賀市のまちづくり出前講座に講座を開かれ、「子どもの成長における読書の大切さと読み聞かせ」とテーマでされているということです。今回は1件ということですが、図書館が率先してこういう講座をしてくださるといのはとても大事なことだと思います。図書館に来る人というよりも、「読書は大切だ」ということを図書館からアピールしてくださるといのはすごくいい企画だと思います。ぜひこれをもっと受ける人がふえるように、図書館でこういう講座ができるということを案内したり、セカンドブックやブックスタートのところで、「地域でニーズがあれば出前講座ができるんですよ」と言い添えてもらうとか。もっと回数が増えていくと、1年に1回くらいではもったいないので、もっと増えるように期待しています。

(会 長) ありがとうございます。先ほども出ましたが、もっと何らかの形でPRをとという事も出ましたね。その他、この項目でありましたら。よろしいですかね。

4つ目に、別紙で一覧表の貸出冊数人数、入館者数、新規登録数の様子が説明されました。私は学校へ来た方も入館者数に入れていいんじゃないかと先ほど申し上げたぐらいですが、ここは市立図書館の数ですよ。この状況を踏まえて、何か感想、御意見等ありましたら。そんなに減ってないんじゃないか、若干増えているところもある、寒いインフルエンザがはやった時期は若干減ったかなというところを言われましたね。指摘もありましたけども。はい、どうぞ。

(副会長) 平成28年度と平成29年度と比べたら最近減ってきたという割には、入館者数についても、貸出冊数も貸出人数も平成28年度より増えていますよね。

ただ、私は増えているということは大きなことで良い傾向と思うんですが、月ごとを見た時に、平成29年度は8月以降は全部平成28年度よりも少ないんですよ。何かちょっと心配というか。もともと、年の後半は利用者数は前半に比べれば少ない傾向にありますけれども、平成29年度は増えたと言いながら、8月以降は全て平成28年度よりも若干少なくなっているというのは、何か心当たりがある内容なのか、それともわからないのか、どちらなのでしょう。せっかく増えたのが、来年減りはしないかと心配しているんですよ。

(会 長) 前半で持っているという部分があるのかなという意味ですか。

(副会長) もともとそうなんです、平成28年度と比べた場合ですね。

(会 長) 一般的にはこういう傾向はあるんですか。時期的には、春夏が多くて、後半、寒くなると少ないという。

(副会長) 毎年だいたい傾向的には秋冬が少ないんでしょう。この表を見てもわかりますけど。

(会 長) ところが他の年と比べるとということですかね。何かこのことについて、今、御指摘のあった部分で、コメントできますでしょうか。そこまで分析的にはあれですかね。副会長その辺はどうですか。どんなふうに解釈されますか。

(副会長) トータルで増えているから、私は良いとは思いますが、少なくなり始める8月以降に何か手を打たないと。この繰り返しの中で、せっかく前半で増えた分が、後半になると少なくなってしまうということであれば、今後増やしていきたいときにネックになる。夏休み明けてから、この辺が何か一つの手の打ちどころかなと思います。ただ、頭打ちであった、少なくなってきたというこれまでの傾向からすると、よく踏ん張っていると思います。ただ、さっき言いましたように、よく見ると、良くなったとはいえ心配な部分がありますので、そこらは手を打てるんじゃないかなと思っているところです。

(会 長) 具体的なところをおいおい考えていきましょうか。御指摘ありがとうございました。他にどうでしょうか。どうぞ。

(村山委員) 村山です。駐車場の件についてなんですけど、以前は、図書館の駐車場は、図書館の人が使うということだったんですけども、最近は、「自由に使っていていいとよ」と聞いて、申し訳ないんですけどほかのところに用があるときも停めたりしているんですけど、そういうことで、止められないからといって、入館しづらいというようなことがないのでしょうか。質問です。

(事務局) 今の駐車場というのはリーパスプラザこが全体の駐車場ということになっております。以前は図書館の横は図書館の駐車場ということだったんですが、図書館の横も、それから交流館と大ホールの向こう側もリーパスプラザこがの駐車場ということで、図書館に用事があっても、交流館に用事があっても、どこでも使っていただけるということになっております。ただ、以前から図書館のほうによく来てある方にとっては、「ちょっと駐車場が多いですね。」とか、「今日は入りにくかったです」ということは、カウンターの中でも聞くことはありますので、「申し訳ありません」ということで、全体を使っていただくようにということでお願いをしているところです。

(2) 今後の運営について

(会 長) 今駐車場のことも出ましたので、今後の運営のことも含めて、(2)今後の運営に行きましようか。事務局で、来年度以降で検討、考えているというのがございましたら、事務局お願いします。

(事務局) 今後の運営についてお話をさせていただきます。来年度以降につきましても、引き続き、市民の皆様のニーズに対応した図書館のサービスを行っていきたく思っております。

今年度10月に、第3次古賀市子ども読書活動推進計画を作成することができました。この計画に基づきまして、家庭・地域、ボランティア団体、学校などと連携した子どもの読書活動の推進を進めてまいります。

平成28年度から始めましたセカンドブック、小学1年生への読書ノート配布、中学生

読書サポーター講座など、発達段階に応じた事業を継続して進めてまいりたいと思っております。子ども向けの講座では、英語のおはなし会や、文学だけではなく科学、プログラミング教室など、実現できるかどうかわかりませんが、検討していきたいと思っております。今年度は、先ほど申し上げましたように新たな取組として、学校図書館における市民開放用一般図書の配本を教育総務課、学校教育課と連携して進めてきたところでございます。先ほど言っていましたように、大変貴重な取組と思っております。引き続き取り組んでまいりたいと思っております。大人向けにもレファレンスサービスに努めるとともに、読書講座、野菜づくりの講座や、「図書館で学ぶがん講座」など暮らしに役立つ講座の継続、今度は加えて大人向けの落語講座も実施したいと考えているところです。

さらに、読書の楽しみを広げる講座、ビブリオバトルを今年度はしましたけれども、ビブリオバトルまたは読書会、そういうものも開催することを検討していきたいと思っております。生涯をとおして市民の皆さんが等しく学ぶことのできる環境整備に留意していきますとともに、郷土古賀の資料の収集、保存にも努めてまいりたいと思っております。

それから、さきの図書館協議会で、図書館の時間延長についての話も出ておりました。今図書館をなかなか利用できない学生さんや仕事を持った方がいらっしゃるということで、そういった方に対する、公共図書館のサービスのあり方を考えるとともに、将来の古賀市の図書館がどうあるべきなのか、どうしていったほうがいいのかということも見据えながら、図書館の窓口業務の委託ということも含めて、調査検討を今後していきたいと思っております。引き続き、委員の皆様のお意見も伺いながら進めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(会 長) ありがとうございます。運営方針あるいは事業計画等について、口頭ではありましたが、大体の概略を言っていただきました。加えて、昨年策定しました古賀市子ども読書活動推進計画を踏まえて、具体化するということがありますね。そのことも、この協議会でも今後考えていかなければならないことではありますけれども、事業計画についてはまた具体的に、次の会、来年度当初の会になると思います。

それから、運営の面、先ほど出ました時間延長の件については、そのあたりを調査検討して今後、一つの大事な課題ではあるということはおわかった上で、予算的なことや、市の方針等もございますし、そのことも踏まえて、また検討していきたいという報告を言われました。今、事務局のほうで説明された、状況で何か御意見御質問等ございましたら。

(渋田委員) 今年度から小学生向けのおはなし会をこの回数されています。これだけたくさん長期休みにされているので、この中の1回でも、絵本を読むだけではなくブックトークを入れて欲しいと思います。そうすれば小学生でも長期の休み前に聞けば後半に読んでみようかなと思う子も出てくると思うので、今後検討してもらいたいのが一つです。

あわせて、幼児から小学生向けはこうやって揃ったので、あとは中高生向けに本の紹介もどこかで入れてもらえると、より古賀市子ども読書活動推進計画に近づいていくんじゃないかと思うので、今後検討して欲しいと思います。

(会 長) ありがとうございます。このことは推進計画の一部にも関わっていますね。読み聞かせ等も含めて、本への誘いであるブックトークという活動は大事な活動ですね。

それからヤングアダルトといいますか、若者向けの事業なり活動なりももう少し腰を入れていったらどうだろうということもありました。ほかにございませんか。関連でも結構です。はい、どうぞ。

(石丸委員) 今後の運営についての計画は、読書推進という視点でいろいろ企画されているというのがすごくわかりました。

図書館の役割って、読書を推進していくのはとても大切だと思うんですけど、居場所という側面もあると思います。特に子どもの居場所、高齢者の居場所、そういうことを意識した取組、ただで長居できる場所というようなことであって、外国だと子どもの居場所という意味で学童が図書館に併設している場所もあると聞いたんです。そのようなことで、今後子どもが長くいてもいい場所というようなことを担う立場でもあるんじゃないかと私は思います。高齢者はもちろん、居場所ということ意識した図書館の役割ということでの取組も検討していただきたいと思います。

(会 長) 子どもの居場所、高齢者の居場所ということですが、言い忘れたんですけども、この星印がついているものは、高齢者外出促進事業対象イベントだそうです。高齢者の方が外に出て参加することで介護予防につながり、少しでも高齢者の方の元気、健康づくりに図書館がかかわっているというのが同じだと思うんです。

一方、今言われた子ども達の居場所づくり、高齢者の居場所づくり、そういうことも含めて、今、御指摘がありましたので、検討していきたいものだなと思います。

(3)その他

(会 長) (3)その他ということで、皆さん方から今年度最後、これまでしてきたことを踏まえて、どうしても言っておきたい、聞いていただきたいというのがあれば出していただければ。この協議会の進め方等でも結構でございます。もっとも協議会についてはまたメンバーが来年度どうなるかということももちろんございますけども。

それでは事務局の方でその他ということで、考えていらっしゃるものがあればどうぞ。

(事務局) 事務局からは、2点お願いいたします。議事録校正についてのお願いです。ご多用の中お世話をかけておりますが、今回は村山委員さんそれから洪田委員さんをお願いをしたいと思います。校正が終わりましたら、事務局までお願いいたしたいと思っております。

2つ目ですが、次回の開催日についてでございます。5月の終わりに開催を予定したいと思っております。委員の皆様の委員としての任期というのが、平成30年7月31日までとなります。この委員会でのメンバーでの会議というのが、次回が最後となりますのでよろしくお願いいたします。候補日としましては、5月22日火曜日、29日火曜日あたりではどうかと思っておりますので、御意見よろしくお願いいたします。

(会 長) わかりました。1点目は、会議録校正は村山委員さん、洪田委員さんよろしいでしょうか。すみませんが、後でまとまったら点検をお願いします。2点目は次回の開催日についてです。来年度、最初の会は5月末、火曜日の案が出ました。土曜日か日曜日に運動会があるとなると火曜日がいいという意味で言われたのではと思います。5月22日火曜日、29

日火曜日のこの時間かなというところですよ。我々は7月31日までの任期ということで、委員の皆さんは、次回まではこのまま、ただし学校のほうは異動があったりしますのでどうなるかわかりませんが、基本的には次回も同じ方々に来ていただくこととなります。一応案は今日決めておきたいと思っております。5月22日、29日で御都合の悪いときを言っていただければなければどちらかで決めておきますが、後は図書館の御都合で決めていただいても結構です。学校のほうは火曜日の、どちらの日でもいいですよ。

(事務局) 6月議会が始まりますので、5月22日火曜日でだいじょうぶでしょうか。

(会長) 5月22日の方向でいきますが、異議はありませんか。それでは、御都合が悪ければまた言っていただいて、5月22日ということで次回お集まり願いたいと思っております。それでは私の方からは以上でございます。ありがとうございます。それでは事務局にお渡しします。

(事務局) 協議いただきましてありがとうございます。鈴木会長、副会長、議事進行どうもありがとうございます。ありがとうございました。

4 閉会のことば

(事務局) それでは閉会の言葉を教育部長清水よりいたします。

(部長) 活発な御意見をいただきましてありがとうございました。

2月17日土曜日に青少年育成関係で、青少年の作文発表会がございました。市内の小中学生が御自身で書かれた作文を発表したのですけれども、皆さんのすばらしい表現や語彙に感心させられました。その中でも私が一等感心したのが、1番初めに発表された青柳小学校6年の栗原君の作文でした。「僕のお父さんの仕事」ということで発表されまして、冒頭「僕のお父さんの仕事は焼鳥屋さんです」と始まりました。そこでまずぐぐっと心をつかまれまして、最後は「僕も大きくなったらお父さんみたいな焼鳥屋さんになりたい」という結びでした。その間にお塩をかける「はっ」という掛け声や、お父さんの「お前も立派になったな」という、大きくなったらお父さんからこんなふうに言ってほしいというような言葉であるとか、情景を思い浮かべられるような表現であるとか、素晴らしい作文を聞かせていただいて、この子はきっと本をたくさん読んでいるのだろうというような思いに至りました。このような子がもっと古賀市の中にもたくさんいてくれるように、今後も図書館協議会の皆様の御意見を頂戴しながら努力してまいりたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしく申し上げます。本日はどうもありがとうございました。